

1 主題名 世界の人々のために 内容項目 C (18) 国際理解、国際親善

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

グローバル化の進展によって、テレビなどのマスメディアやインターネットなどを通して、外国の出来事や文化について知ることが容易になっている現代では、「国際理解」は指一本あればできてしまう感覚に陥ることがある。話題になっている音楽や映画、食べ物などの文化について、あるいはテレビ番組でたまたま見かけた外国の出来事や文化について、興味をもつことは日常生活の中で多くある。しかし、「国際理解」において本当に大切なことは、それぞれの国で異なった文化や伝統を受け継ぎ、守ってきた人々も、みな同じ人間であるという前提に立つことである。同じ人間だからこそ、私たちが外国の文化や伝統に尊敬の念を抱くのと同じように、外国の人々も私たちの文化や伝統に尊敬の念を抱く。そして、互いの文化や伝統を理解し、尊重することの先に、「国際親善」という行動と結果が表れるのである。日本人として、自国の文化や伝統に誇りをもちながら、他国の人々となつがり、自分にできることを考えようとする態度を養いたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

【実態調査】(5年1組 38人 令和4年9月13日実施)

- | | | | | | | | | |
|---|------------------------------------|----|------|-----|---------|-----|------|----|
| 1 | あなたは、外国に紹介したい日本の文化や伝統はありますか。 | | | | | | | |
| | ある | 1人 | 少しある | 15人 | あまりない | 18人 | ない | 4人 |
| 2 | あなたは、外国の文化や伝統について興味をもっていますか。 | | | | | | | |
| | ある | 2人 | 少しある | 12人 | あまりない | 19人 | ない | 5人 |
| 3 | 日本と外国が仲良くするために、自分にもできることがあると思いますか。 | | | | | | | |
| | 思う | 5人 | 少し思う | 24人 | あまり思わない | 8人 | 思わない | 1人 |

アンケートの結果を見ると、外国に紹介したい日本の文化や伝統はあるか、外国の文化や伝統に興味をもっているか、という質問に対して、「ある」と答えた児童は1、2名であることから、積極的に日本の文化を紹介したり、外国の文化について知識を深めたりしたいという意識はかなり低いといえる。また、「あまりない」「ない」と答えた児童が過半数を占めていることから、互いの国の文化や伝統を理解し、尊重することが「国際理解」の第一歩であり、人と人同士のつながりが生まれることに気付かせたい。日本と外国が仲良くするために自分にもできることがあるか、という質問に対する「思う」「そう思う」と答えた児童は全体の4分の3であったことは、本学級の児童が外国人に対して「仲良くなれる」という意識をもっていることの現れだと考えられる。具体的に自分には何ができるかを考えさせることで、「国際親善」という言葉を身近なものに感じさせ、他国の人となつがっていかうとする意識を育みたい。

(3) 資料について(資料名『折り紙大使』～加瀬三郎 出典：新しい道徳5 東京書籍)

本資料は、盲目であるにもかかわらず、49カ国を訪問して世界中の子どもたちに折り紙の楽しさを伝えてきた、加瀬三郎という人物の物語である。日本人にとって馴染みが深い「折り紙」を、世界の子どもたちも喜んで楽しむ姿を知ることによって、「折り紙」という文化のもつ力を感じさせられるとともに、日本人であろうと外国人であろうと、子どもたちが「楽しい」と感じる気持ちは同じだということに気付かされる。そして、加瀬三郎がイスラエルを訪問したエピソードでは、敵同士であるイスラエル人とパレスチナ人が共に折り紙を楽しむ姿が描かれている。日本の文化を伝えるだけでなく、人と人とのつながりを広げていった加瀬三郎の生き方を共感的に考えさせることを通して、日本人として、自国の文化や伝統に誇りをもちながら、他国の人々となつがり、自分にできることを考えようとする態度を養いたい。

3 関連

4 学年 2 月 C(18)国際理解・国際親善 「世界の小学生」	5 学年 1 0 月 C(18)国際理解・国際親善 「『折り紙大使』～加瀬三郎」	6 学年 6 月 C(18)国際理解・国際親善 「白旗の少女」
国語科	社会科	各領域等
5 学年 「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」 「日本語と外国語」	4 学年 「国際交流に取り組むまち・仙台市」 6 学年 「世界の中の日本」	国際教育 「自国文化や異文化理解を深める指導」 ・ALTの活用 ・校内の掲示物の充実

4 本時の指導

(1) ねらい

- 日本の文化を伝えるだけでなく、人と人とのつながりを広げていった加瀬三郎の生き方を共感的に考えることを通して、自国の文化や伝統に誇りをもちながら、他国の人々とつながることのよさに気づき、自分にできることを考えようとする意欲を高める。

(2) 準備・資料 道徳ノート、アンケート結果、電子黒板、タブレット

(3) 展開

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点・評価
1 事前アンケートの結果について話し合い、本時のテーマをつくる。(全体)	○ 日本と外国が仲良くするために、自分にできることは何だろう。 ・困っている国のために募金する。 ・具体的にはわからないな。	・外国に日本の文化が知られていることや、身近に外国の文化があることにも触れ、外国とのつながりを感じさせる。
本時のテーマ：自分にも国際親善のためにできることがあるのだろうか。		
2 資料を読み、加瀬さんの国際親善への思いや功績を考える。 (1)世界の子どもたちに折り紙を教えたいという、加瀬さんの信念について考える。(個人・ノート) (2)ユダヤ人とパレスチナ人が、折り紙を通して仲良くなれた理由を考える。(グループ・Padlet)	○ 外国の子どもたちも、折り紙を楽しんでくれると思ったのはなぜだろう。 ・折り紙はすばらしい文化だと信じていたから。 ・自分の折り紙で子どもたちを驚かせる自信があったから。 ・日本も外国も、子どもたちの楽しむ気持ちは同じだから。 ◎ 国同士が戦争をしているのに、どうして仲良くなれたのだろうか。 ・一緒に折り紙を楽しんだから。 ・分からないときに教え合ったから。 ・相手のことを理解できたから。 ・国同士は戦争していても、人同士は仲良くできると気付いたから。 ・相手も自分と同じ人間なんだと思ったから。	・資料を読む前に、「ハローフオックス」の折り紙を見せ、資料への関心を高める。 ・「折り紙を知らない国に行って教えるのが使命だ」という加瀬さんの信念を共感的に考えさせることで、自国の文化に誇りをもち、外国の文化を楽しむ気持ちはどの国の人にも備わっていることに気付かせる。 ・パレスチナの空爆の写真を電子黒板で提示し、相互の国が仲良くなることの難しさを感じさせる。 ・Padlet を使用することで、各グループの考えを電子黒板上で一斉に提示する。 ㊦なぜ折り紙を一緒に折ることで仲良くなれたのかな。
3 本時の振り返りをする。(個人・発表ノート)	○ 今日のテーマについて考えたことや、これからの自分に活かしたいと思ったことを書きましょう。 ・自分も外国の人と仲良くなるために、日本の文化を紹介してみようと思った。 ・外国の人と仲良くなれそうだな。	㊦自国の文化や伝統を他国の人に伝えたり、国際親善のために自分にできることを考えたりする態度が高まっている。(発表ノート)